四国新幹線

国交省が否定見解

鉄道局長「費用が多大」

四国4県とJR四国などが導入に向け検討を本格化させる「四国新幹線」について、国土交通省の担当者は21日、衆院決算行政監視委員会で、実現の見込みがなく2008年度に調査を打ち切った経緯などを挙げ「直ちに調査の再開をすべき状況にはない」と否定的な考えを示した。

日本維新の会の西岡新氏（比例四国）の質問に答えた。

四国新幹線は大阪市から徳島、高松、松山市付近を経て大分市を結ぶ全長約480キロで、1973年に基本計画が決定。大阪市と兵庫県淡路島、四国と九州の間では海底トンネルを掘るなどの構想で、地質調査を続けていたが、07年度を最後にストップしている。

国交省の滝口敬二鉄道局長は、四国新幹線の実現には「豊予海峡など二つの海峡を通る必要があり、多大な費用が掛かる」と指摘。新幹線ネットワークは、昨年新規着工した北海道、北陸、九州・長崎ルートの3区間の着実な整備を最優先するとした。

西岡氏も「海底トンネルを通すことなどを考えると非現実的」と国交省の判断を支持。四国の関係者には「四国にだけ新幹線がなく取り残される」との声もあるが、西岡氏は「無理して高速化を進めず（他地域と）差別化していくことも一つの方向性だ」との見解を示した。（多田良介）

平成２５年６月２２日

愛媛新聞掲載